

ハワイにおける天理教の先駆的伝道者

日本人の海外への本格的な集団渡航は19世紀後半に始まり、ハワイ政府と日本政府による1885年のハワイへの官約移民がその嚆矢であると言われている。渡航の目的はサトウキビ・プランテーションなどでの就労が主であり、特に西日本の広島、山口、熊本などから渡った人が多かった。この中には天理教の教信者も含まれていた。ハワイに天理教教会本部公認の教会が設立されるのは1929年であるが、それ以前にもこうして労働者として在留しながら布教活動を行っていた人々がいた。ハワイでの天理教伝道を考える上で、まずこの先駆的伝道者たちをみていくことにする。

山口県の周防大島からは多くの人々がハワイに渡航している。1895年この周防大島に設立された屋代島分教会(船場部属)の役員西岡利太郎は教会の神殿ふしんの借金返済のため、1899年にハワイ移民に加わって出稼ぎに出た。また船舶関係の運送業に従事していた徳近長太郎も同行した。当時は民間の移民会社を通じてハワイの会社との労働契約を結んで渡航する私約移民の時代であり、両氏はまずハワイ島ワイナコアのサトウキビ・プランテーションで就労している。同地での契約労働を終了した後、ヒロに出て農業に従事した。教会の借金は無事に返済され、彼らは住まいに神様をお祀りし、労働の合間をみつけては布教活動に従事したとされる。戦後、西岡氏の信仰は娘はるよに受け継がれ、夫浜田政一と共に1976年に明心ホノルル布教所を設立している。

広島県東部の横島にある沼隈分教会(尾道部属)の教会長子弟中尾三郎助は、1900年代はじめにハワイに渡り、マウンテンビューで農業に従事し、後にヒロで輸送業に従事した。1906年に前述の屋代島分教会の西岡利太郎と出会い、西岡宅でつとめられていた月次祭に参拝するようになった。その後、尾立金左衛門(本島部属、1931年に設立されたヒロ教会の初代会長)の布教を支援し、柏原義則(名東大教会3代会長、当時は同教会後継者)のハワイでの布教活動に刺激を受けるなどして、中尾は1938年に満天美勇教会を設立した。

1900年に契約移民が禁止され自由移民の時代になると、就労を目的として渡航する日本人の数が増加した。ハワイに渡った人々は西日本出身者が多かったが、東北地方の福島県からも多数が渡航している。伊達分教会(山名部属)のようぼく瀬戸七郎治もその一人であった。瀬戸は1906年に自由移民として渡航し、カワイロアのサトウキビ・プランテーションで労働した。そのかたわらにおいがけ、おたすけも行ってた。1929年にホノルル教会(本島部属)が設立されると参拝に通うようになり、同教会の上野作次郎会長の薫陶を受け、布教に専念するようになった。1931年に別科に入学するため日本に一時帰国し、修了してハワイに戻ると、オアフ教会を設立した。

1907年には山口県久賀郡米川村の三国又五郎が自由移民としてハワイのホノルルに渡っている。隣家の者からハワイよりしばしば送金があると聞き、自らもハワイ行きを思いついたと伝えられる。親戚の米本宗一氏をたよって、デイリーメン・ミルク会社に勤めた。1920年に一時帰国した際に撫養大教会の

土佐卯之助会長からしっかり布教するようと言われ、ハワイに戻ると1923年に布教所を開設し、親類や友人へのおいがけにまわった。これが1931年に設立された太平洋教会(周東部属)設立の基盤となった。

当初から布教を念頭に渡航した人々もいた。ハワイと同様に、1900年頃には多くの日本人がアメリカ本土へ就労を目的として渡航したが、天理教の教信者も含まれており、労働の合間に布教活動を行う人もいた。高知部属の廣光作吾と土居銀熊はモンタナ州のミズーラで鉄道関係の仕事に従事していた。彼らは熱心に布教活動を行い、定期的に祭典もつとめ、白人も含む多くの人々が集まっていたといわれる。当時の日本におけるアメリカへの渡航熱と教内での布教熱の高まり、そして廣光らの活動を受けて、1907年頃に高知分教会(現大教会)では海外伝道が計画された。翌年には村田瀧馬、都築国太郎、田村磯太郎、津野祐太郎、坂本喜和次、平井定利、中野幸太郎の7人がハワイに渡っている。彼らはカウアイ島コロナのサトウキビ・プランテーションで就労しながら布教活動を行った。しかし、労働は苛酷であり、布教対象も農園で働く人々に限られ、おいがけやおたすけに出ることは困難であったという。

こうして出稼ぎを主な目的としてハワイへ渡った多くの日本人に混じって、天理教の布教師や信者が渡航し、労働の合間をぬって布教活動にいそしんでいた。この状況は1929年にハワイ初のホノルル教会設立を機に大きく進展していくことになった。また1907年の日米紳士協定後日本人渡航が制限されると、すでに移住していた人々の家族などが呼寄せで渡航することになったが、この中にも天理教の信者が含まれており教勢進展のみに貢献した。たとえば山口県の徳山分教会(高知部属)のようぼくであった藤井ユリは、1911年に夫の呼寄せでハワイに渡り、近隣の教会に参拝しながら信仰を続け、戦後1956年にノースキング教会を設立している。

なお、アメリカ本土とハワイの両方で、ほぼ同時期にこのような先駆的な布教活動が開始しているが、各教会の記録などを見る限りでは、アメリカ本土での伝道開始の方が少し早く、また布教活動を行う人の数も多かったようである。苛酷な労働状況であったことは両地とも変わりはないが、現地の生活において経済面、社会面でやや安定した教信者の人たちの数が本土の方で比較的多かったこと、またハワイ日系移民社会では仏教や神道などの伝統宗教がすでに根付き始めていたことなどが、教会設立以前の先駆的伝道の違いを生んだ要因ではないかと考えられる。ただしこの点に関しては更なる検証が必要であろう。

[参考文献]

- ハワイ日本人移民史刊行委員会編『ハワイ日本人移民史』布哇日系人連合協会、1964年。
中尾善宣「ハワイにおける初期の布教全般について(1)」『天理教海外部報』第433号、2001年3月26日、14～15頁。
天理教ハワイ伝道庁編『天理教ハワイ伝道庁50年史—伝道庁史編』天理教ハワイ伝道庁、2006年。
天理教尾道分教会百年の道編集委員会編『百年の道』天理教尾道分教会、1993年。
天理教船場大教会史料掛編『船場大教会史：部内篇』天理教船場大教会、1994年。
天理教高知大教会史料部編『天理教高知大教会史』第1巻、天理教高知大教会、1981年。